

今月のことば

善いことをしよう
と思うべが
私の中に
起こったとしたら
それは
仏さまのお育て

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師

こ いけ ひで あき
小池秀章

私たちは、善いことをすることもあれば、悪いことをしてしまうこともあります。

妙好人（お念仏の教えを依りどころに生きる有り難い方）として有名な源左さんに、次のようなエピソードが伝わっています。

ある日、一人の村人が、源左さんが他人の田んぼで、屈んで何かをしているのを見かけました。そして、「源左さん、そんなところで何をしているんかいのう」と尋ねました。

それに対して源左さんは「おらあ、他人の田んぼの畦に穴が空いているのを、止めるような立派な人間ではないけれど、『源左よ、源左よ、お前が止めなければ、田んぼが干上がってしまうぞ』と、親さま（アミダさま）がおっしゃるので、いったん通り過ぎたけど、引き返して、止めとるだいなあ」と答えました。

「他人の田んぼのことは、放っておいても構わない」というのが、源左さんの性根だったのです。しかし、仏さまの教えを依りどころに生きている源左さんの心に、アミダさまの声が響いてきたのです。このように、アミダさまの声に導かれながら生きるのが、仏さまの教えに生きるということなのです。

仏さまの教えを聞いたからといって、清らかな心になるわけではありません。そのような私たちの心の中に、もし、善いことをしようと思う心が起こったとしたら、それは、仏さまのお育てによるものなのです。

合掌